

令和6年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会 1月27日(月)

本年度も皆様方のご理解とご協力の下、教育総合センターの事業を実施してまいりました。ご支援いただき、ありがとうございました。第2回教育総合センター運営委員会で行いましたご意見の一部を紹介します。

○研修について

- ・たくさんの事業を計画され、様々な講師の話を聴くことができ、教員の学びが深まっている。
- ・若手教員研修会については、市として、若手教員を育てていくために何をすればよいのかを考えていく必要があると感じている。授業づくりについて悩んでいる若手が多いので、実際に授業を参観して学ぶ場があればよいのではないと思う。
- ・「教育セミナー」の参加や「令和のとやま型教育推進事業」の取組をさせていただいた。そのたびに、「初めて知ること、思いもしなかったことをその場で知ること」があり、自分がアップデートできたと思った。研修後、帰るときには、明日も頑張ろうという気持ちになった。

○ICT教育の推進に向けて

- ・「ICTを活用した授業づくり研修会」の研究校として、校内研修を通して、全員で学びを深めることができた。
- ・今年度はオンライン研修がたくさんあった。短い時間でのオンライン研修であれば受講しようと思う先生が多かった。
- ・来年度、中学校の教科書が変わることもあり、1人1台端末のデジタル教科書を活用するための研修会をしていただけるとありがたい。

○その他

- ・今年度から、学力向上推進委員会ができた。学力向上に特化し、課題等について便りで周知されていたのでありがたかった。大事な取組だと思う。
- ・次年度予定されている「課題解決に向けたオンライン研修会」は、自分の課題を見付け、選んだものを視聴できるのでとてもよいと思う。



第2回 ICT教育推進プロジェクト会議

2月25日(火)

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科 教授 長谷川 春生 先生

ICT教育推進に向けた取組（教育総合センター）と、ICT環境整備等（学校教育課）について説明した後、ICT教育推進委員が、今年度の市・学校の取組の成果と課題や、「スキル体系表」の活用についてグループで意見交換を行いました。

【成果】

- ・日々の取組により、児童生徒のICT活用が当たり前になってきた。
- ・ICT活用に積極的な教員が増え、研修を通じて活用事例を共有できた。

【課題】

- ・教員の活用スキルに差があり、計画的に研修を行う必要がある。
- ・ねらいを明確にした端末活用によって、児童生徒に確かな学力を付ける。

【スキル体系表の活用】

- ・実際に1年間使用して、必要に応じて改善していけばよいのではないかな。
- ・支援動画を作成したり、「まなDX」の活用事例に活用スキルとの関連を明記したりする。

<ICT教育推進委員会委員長と小・中校長会長より>

- ・授業では、「書く」「触れる」「ICTを活用する」をバランスよく取り入れていく必要がある。
- ・起業家体験を行っている学校同士等、日常的に遠隔合同授業が行えるようになればよい。
- ・悉皆研修の機会を活用し、氷見市のICT教育推進の方向性を打ち出し、周知を図ればよい。

<長谷川先生からの指導助言>

- 氷見市の「スキル体系表」は、最低限の内容となっているところがよい。今後、できたものをどう活用して定着させるかが課題となる。若手教員がリーダーシップをとり、活用推進を図ってほしい。
- 教員が無理なく使える範囲で活用していくことが大切である。得意な先生と苦手な先生との間にギャップが生じないように、互いにサポートし合いながら取組を進めていくようにする。
- 「他者参照」が気になっている。共同編集のよさを生かし、授業の中で互いの学びを簡単に共有できる場所はよいが、どのタイミングで「他者参照」を行えばよいかを吟味していく必要があるのではないかな。
- クラウドサービスを利用する際には、教員が十分なセキュリティ意識をもち、安全かどうかを確認してほしい。



本年度の成果や課題を生かし、今後もICTの効果的な活用に向けた取組を進めていきます。

調査研究事業「ICT教育推進委員会」 ー児童生徒のICT活用スキルの向上を目指してー

先日、ICT教育推進委員会で作成した「氷見市のICT活用スキル体系表（小学校版・中学校版）」を先生方にお配りしました。ご覧いただけましたか？

体系表には、児童生徒の発達の段階を考慮し、各学年で身に付けさせたい最低限のスキルを明記しました。先生方には、小学校版・中学校版共に目を通していただき、児童生徒が段階的にICT活用スキルを身に付けられるよう、体系表に基づいたタブレット端末等の活用推進にご協力をお願いいたします。なお、体系表を学年持ち上りの資料（学級経営案等）に綴り、児童生徒の実態を申し送っていただきますよう、お願いいたします。

氷見市のICT活用「まなDX氷見」（HP）をご活用ください！

氷見市のICT活用「まなDX氷見」には、小・中学校（義務教育学校含む）ごとに、様々な活用事例が紹介されています。2・3学期の活用事例については、近日中に追加します。簡単にデジタル付箋を活用できる「ふきだしくん」の活用等、各教科はもちろん、特別活動における効果的な活用事例も多数掲載する予定です。ぜひ、各校HPよりアクセスしてご覧ください。

なお、パスワードは、C4th「教育センターからのお知らせ」でご確認ください。

第2回幼保小接続研修会（市役所子育て支援課と共催）

1月28日（火）

テーマ「今年度の幼保小接続における成果と課題」

講師 富山短期大学 教授 四杉 昭康 先生

① 校区別グループ協議：「今年度の取組についての振り返り」

今年度の活動を校区ごとに振り返り、取組の成果を共有しました。新しく活用した報告書の様式やメールでのやり取りはどうであったか、改善点や見直したい箇所はどこか等について話し合い、みえてきた課題を乗り越えるために様々な手立てを出し合いました。



② 講評とまとめ：富山短期大学 教授 四杉 昭康 先生

四杉先生からは、グループ協議の内容について、それぞれに講評をいただくとともに、接続期の取組や学びの連続性について、具体的な事例を示しながら教えていただきました。子供の姿のエピソード記録を基に、参加者が自分事として考える場を用意され、環境づくりの大切さや子供への関わり方について理解を深めることができました。

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

2月21日（金）

会議では、まず氷見市の生徒指導上の諸課題に関する現状や、いじめ防止対策の取組等について説明を行いました。

その後の協議では、富山県教育委員会発行の「いじめ対応ハンドブック」の研修資料（ケース4 スポーツ少年団におけるいじめ）を使い、グループで事例検討を行いました。グループ協議では、「児童生徒理解・見立てと手立て」⇒「未然防止策」という流れで話し合いました。学校内外を問わずに相談しやすい雰囲気をつくることや、各団体との連携を密にして指導を行うことの大切さ、専門家と連携して児童生徒に力を付けること等、それぞれの立場から様々な意見が出されました。

西部教育事務所指導主事 長谷川和也先生からは、事例について考える際のポイントを教えていただくとともに、「地域総ぐるみでいじめを防止する」「いじめ見逃しの可能性を常に疑う」ことの大切さについて、調査結果等を交えながら教えていただきました。また、西部教育事務所発行の「明日のために」を、いじめ問題への対応の際にも活用してほしいと話されました。

児童生徒がいじめの被害者にも加害者にもならないよう、いじめ問題の未然防止に向けた関係機関との連携を、日頃から培っていくことの大切さを再確認することができました。

「氷見市教育総合センターのホームページ(新設)」について

このたび、教育総合センターのホームページ（以下、HP）を作成し、今年度中に公開する予定です。そこで、HPについて、一部紹介します。



HPのトップ画面です。
ここから、「教育相談」「教職員のページ」「所報・センターだより」等、様々な情報が掲載されているページに入ることができます。
氷見市のHP、氷見市子ども発達サポートセンター「くるむ」、文部科学省等へのリンクを張っています。

「教職員のページ」のトップ画面です。所定のパスワードを入力することで入ることができます。

「まなDX氷見」には、各教科や特別活動における様々な活動事例を掲載しています。教育活動の改善につながるヒントが、きっとあると思います。

また、教育図書の貸出状況や、センターが所蔵する学習指導案のリストを確認することもできます。

まなDX氷見 - ICTの効果的な活用 -

このコンテンツはパスワードで保護されています。閲覧するには、以下にパスワードを入力してください。

Password: Enter

「教職員のページ」は、保護者等、一般の方は閲覧できません。

2 研修事業

◆ 幼・保・小接続教育研修会

幼・保・小学校間の段差に配慮し、円滑な接続の在り方や、具体的な連携の進め方を学ぶ。

◆ 教育セミナー

教育における今日的な課題に関する講演を通して、教員の実践意欲と資質の向上を図る。

◆ その他自主研修会等

若手教員研修等を通して、教育実践力の向上を図る。

令和6年度研修事業予定表

研修会名	開催期日	主な内容	受講対象者
学力向上研修会①	8月6日	全国学力・学習状況調査問題及び結果分析の活用 講師 学力向上推進チーム	小・中 義務 教員
学力向上研修会②	7月31日	「令和のとやま型教育推進事業」 問題発見・解決型学習等について 講師 大妻女子大学教授 澤井陽介先生	小・中 義務 教育 学校 教員

これは、「研修事業」のページです。
このページでは、教育総合センターが主催する各種研修会のねらいや開催日程、受講対象者等を確認することができます。

HPには、「センター日誌」のページも設け、実施した事業や研修会について公開する予定です。

左記の研修事業予定は、令和6年度のものであります。

お子さんのことで悩んだり、不安に思ったりされている保護者の方や、学校や友達等のことで悩んでいる小・中学生の皆さんは、このページから教育支援センター「あさひ」の支援内容や連絡方法等を確認することができます。
ぜひ保護者の方や子供たちに、情報提供をお願いします。

こんな不安や悩みはありませんか？

- ✓ 学校へ行くことができない。
- ✓ 学校へ行くのをいやがる。
- ✓ いじめられたり、からかわれたりする。
- ✓ 友達がいなくて、孤立しがちである。
- ✓ 人とうまく話したり、関わったりすることができない。
- ✓ 落ち着きがなく、情緒が不安定である。
- ✓ 学習に意欲がみられない。
- ✓ 学習のつまみづきがある。
- ✓ 進路に不安がある 等

教育相談及び教育支援センター「あさひ」について

教育支援センター「あさひ」では、市内の子供たちのよりよい成長を願って、学習や生活の悩みを軽減するための相談を行っています。相談員が、子供たちとより、保護者や学校からの相談に応じ、一緒に考えながら、不安や悩みの解決に向けて支援いたします。



詳しくはこちらから

HPについては、随時更新するだけでなく、先生方のご意見等をお聞きし、改善していきたいと考えています。HPをご覧になった感想やご意見等、お気軽にお寄せください。

令和6年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

< 小学校・義務教育学校（前期課程） >

※ 優秀賞・優良賞は、学校番号順に記載

賞	学校名	氏 名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	海峰小学校	久田 綾希	つくり出す喜びを味わいながら、対話を通して豊かに関わり、学び合う子供の育成
優秀賞	朝日丘小学校	國谷 祐平	子供や保護者の願いを大切にし、友達と楽しく関わり合い、主体的に学習に取り組もうとする子供の育成
優秀賞	湖南小学校	中 郁哉	自他を大切にし、自分の思いを伝え合い、よりよい学級を目指す子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	千財 唯 廣澤 裕文	自ら学ぶ子供の育成
優良賞	窪小学校	片原 純怜	思いや願いの実現に向けて探究しながら、自分の可能性を拓いていく子供の育成
優良賞	窪小学校	橘(北河) 琴	音楽と豊かに関わり、自分の思いをのびのびと表現する子供の育成
優良賞	上庄小学校	藤 友希子	一人一人が成長を実感し、「になりたい自分」に向かう子供の育成

< 中学校・義務教育学校（後期課程） >

賞	学校名	氏 名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十三中学校	長野智華子	生涯にわたって健康な生活を営む子供の育成
優秀賞	十三中学校	瀬戸いずみ	自ら考え、判断し、進んで学びに向かう生徒の育成
優良賞	南部中学校	竹内 奎人	よりよい学校生活を実現するために、主体的に行動する生徒の育成
優良賞	北部中学校	石川 智大	問題解決の過程と個別最適な学びを取り入れる数学科のカリキュラム開発
優良賞	西條中学校	曾根 果	自然の事物・現象を科学的に探究する生徒の育成

新着図書の紹介 ～ 今年度の貸し出し冊数は101冊（2月現在）～

タイトル	編集著者	出版社
レベル別全解説 教師のほめる技術	菊池 省三 著	明治図書
子どもがつながる、学びが深まる「発問」	竹川 慎哉 編著、豊田 ひさき 編著	学事出版
ウェルビーイングの教室	赤坂 真二 編集、著	明治図書
お母さんを支える言葉	木村 泰子 著	清流出版
小中学生の非認知能力	櫻井 茂男 著	図書文化社
ボタンの掛け違い	古舘 良純 著	東洋館出版社
「生涯にわたって能動的に学び続ける力」を養う教科教育への挑戦	加固 希支男 著	東洋館出版社
「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業	石井 順治 著	ぎょうせい
子どものために教師ができること	田中 博史、盛山 隆雄 著	東洋館出版社
心を育てる	鈴木 恵子、宇野 弘恵 著	東洋館出版社